

エリアウェーブ



主な記事・紹介校・団体

- ・風の子保育園・塩山北中・加納岩公民館
- ・東雲小・山梨市生涯学習課
- ・甲州市文化財課・笛吹市生涯学習課
- ・勝沼中・山梨南中・山梨北中
- ・日川高・ことぶき勸学院



峡東教育事務所 地域教育支援スタッフ Tel 0553-20-2731 Fax 0553-20-2733



11月18日(木)、峡東地域教育推進連絡協議会による「人権のための講演会」がいちのみや桃の里ふれあい文化館にて開催されました。会場96名、オンライン30名の参加者は、他文化共生について理解を深めることができました。以下に今回の講演内容の一部抜粋を掲載します。

●「他文化共生」というと先ず、様々な国や地域との文化の共生が考えられます。今、海外で暮らす日本人の数も限りなく増え、逆に日本で暮らす外国人も多くなっています。県内には全校児童の3分の1が、外国人の子どもという小学校もあります。あらゆる地域で、言葉・文化・歴史の違いを乗り越えて、あるいは共有して生きることが、普通になりつつあります。

今日は、お隣の国・韓国(分裂前の朝鮮を含みます)の人々との絆を生きた3人の日本人について話そうと思います。この3人の生き様を通すことで「他文化共生」の一端が見えてくるような気がするからです。

●小説『白磁の人』の主人公・浅川巧は、山梨県の八ヶ岳の麓で生まれました。兄・伯教の後を追うように朝鮮(韓国)に渡り、当時は日本の植民地のように扱われていた韓国で、山々を緑にする仕事(植林)をしながら、韓国の人々と親しく付き合い、韓国伝来の美術・工芸などを未来のためにのこしました。彼の仕事は、インドの美術工芸にも影響を与えています。巧の生き方は文字通りに「他文化共生」の一例といえます。韓国の人々に慕われた巧は、僅か40歳で亡くなり、今も韓国の墓地に眠っています。

●小説『慈雨の人』の主人公・曾田嘉伊智は、山口県生まれのクリスチャンで、韓国で千人とも2千人ともいわれる孤児を育てました。戦後は日韓関係が回復

しないため13年間日本で過ごしましたが、在日韓国人の人々の支援を受け、韓国帰国の希望が叶いました。育て上げた孤児たちばかりでなく、その子ども・孫の世代までが「ハラボジ(おじいさん)お帰りなさい」と嘉伊智を歓迎しました。その翌年、ソウルで亡くなり、希望通りにソウルの墓地に葬られました。巧同様、「韓国の土になった」もう一人の日本人です。

●最後は小説『オンマ(母ちゃん)』の主人公・望月かずについて話します。かずさんは東京生まれ。幼い時に父親を亡くし、商売のために共に満洲に渡った母が殺された後は様々な苦勞を舐め尽くし、戦後、もう一度満洲を目指しますが、朝鮮戦争のため韓国で足止めされます。ここで一人の戦災孤児(赤ん坊)を助けたことがきっかけとなり、その56年という短い生涯に、独身のまま133人もの戦災孤児を育てます。「子どもには施設ではなく、母親・家族が必要なのだ」という信念のもと、自分の血を売ってまで子どもたちの生活にあてていたなどの苦勞が祟り、早死にしています。「人類愛」などという簡単な言葉では言い表せない彼女の一生でした。かずさんはソウルの共同墓地に眠ります。そして分骨されたかずさんは、今、静岡県富士市の黄檗宗・福寿山瑞林寺に富士山に見守られるように眠っています。私は、かずさんこそ地藏菩薩であり、マザー・テレサ以上の「愛の人」であったと思っています。

本年度の講演会にご参加いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。様々なご意見、ご感想をいただき誠にありがとうございました。アンケート結果を来年度に活かし、これからも峡東地区にとってより良い講演会を企画していきますので、よろしく願い申し上げます。

オンラインで国際交流

笛吹市立一宮北・石和西小学校
甲州市立大藤・神金・玉宮小学校・勝沼中学校

世界中の生活を一変させた新型コロナ感染症ですが、いつでもどこでも誰とでもオンラインで繋がることのできる新しい生活様式をもたらしてくれたことも事実です。一宮北小や石和西小では今年度より笛吹市のALTの派遣を委託された(株)ハートコーポレーションの企画で、Webex等を用いてオーストラリアの小学校とクラス同士で全員が交流を行いました。また、勝沼中では実証研究の指定を受け、一般的なインターネット回線の1000倍の通信速度を誇る国立情報学研究所のSINETを用い、2年生65人が各自の端末からフランス在住者と交流しました。また、大がかりな企画や準備を行わずとも、大藤・神



一宮北小の交流 (10/25)



神金小の授業 (6/14)



勝沼中のSINET (10/21)

りな企画や準備を行わずとも、大藤・神

金・玉宮小ではALTのローレン先生が通常の授業の中でGoogle-Meetを用いてアメリカの親族と会話し、児童たちもさながら同じ部屋にいるように会話をしていました。いずれもインターネットを介して自分たちのことを紹介したり質問したりして国際交流を果たした子どもたちは、諸外国をより身近に感じることができたことでしょう。

今だからこそ必要な金融教育

認定こども園 風の子保育園
甲州市立塩山北中学校



講演を聴く風の子保育園の参加者

山梨市の風の子保育園では、11月19日にオンラインで文部科学省の消費者教育アドバイザー、あんびるえつこ氏を講師に迎え、ハイブリッドで金融教育公開授業を行いました。参加者たちは幼いうちからお金について考えさせる重要性について学びました。また、塩山北中では11月5日に1,2年生と希望する保護者に対し、県内初となる日本郵政グループによる金融教室を行いました。地元の神金郵便局から金子局長、ゆうちょ銀行から丸山氏、日本郵政からコンサルティングアドバイザーの冬木氏の3名が講師を務め、それぞれの職種の立場から金融のしくみや電子マネーの危険性など、解りやすく工夫された説明がなされました。講話を聴いた生徒からは「将来、私が自分自身でお金をかせぎ、自分で生活し、家族を養っていかねばなりません。だから、今のうちからしっかりとお金について学び考えたいと思いました。」といった感想が聞かれました。



講話を聴く塩山北中の生徒と保護者

藍染めと木工の体験教室

山梨市 加納岩公民館



藍染めの模様を驚く様子

各公民館では特色となる独自の活動を企画・運営しています。山梨市の加納岩公民館では10月23日、小学生とその保護者を対象に、染色家の古屋真知子氏を講師とする藍染教室が行われました。子どもたちは白い手提げバッグを糸できつく縛り、最後までどんな模様になるかわからない作業工程に不安を抱きつつも、予想以上に素敵に仕上がった作品を手喜んでいました。また、10月26日には緑の普及啓発事業を委託されている「緑の相談所」との共催事業で、つつじ幼稚園の年長親子を対象に工房夢木の花輪浩三氏を講師とする木工教室が行われました。親子は協力して細かい木のパーツを組み上げ、動くトンボのおもちゃの制作に挑戦しました。いずれの教室も、参加した子どもたちは普段は手にすることの少ない道具や材料に苦戦しながらも、貴重な体験を楽しんでいました。



丁寧に組み立てる親子

菊づくりは人づくり・地域の絆づくり

甲州市立東雲小学校

東雲小では昨年度から総合的な学習の時間を活用して6年生全員が鑑賞用の大菊を育てています。11月2日、児童たちは今年も見事に咲いた菊の鉢をリヤカーに載せ、感謝の言葉とともに普段から見守っていただき、お世話になっている近隣の店舗や施設

17カ所に配布しました。菊を店頭で飾ってもらった店

主の方々の中には「かつては自分も東雲小で学び、菊をつくっていました。伝統が復活して嬉しいです。」という方もいれば、「都会から子育てのために移住

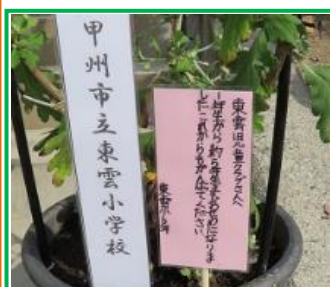
してきたのですが、地域の子どもと触れ合う機会が増えて感謝しています。」といった方もいました。美しく咲き誇る大輪の菊は、それを目にした店舗や施設の方々と利用者の方々の会話の機会を生み、地域の絆も深めていました。



立派に育てた大輪の菊を、協力して運ぶ児童たち



店の責任者らにお礼の挨拶をしながら、菊を飾って回る児童たち



見守りなどへの日頃の感謝を伝えるメッセージ

楽しもう不思議体験！

山梨市生涯学習課・子ども科学教室支援会

山梨市教育委員会では子どもたちの科学する心を育むために、「子ども科学教室」を開催しています。参加した児童たちは、山梨市子ども科学教室支援会（会長・中村 精志先生）の方々の指導を受け、6月には空気と水の圧力を学び、11月には液体窒素で超低温の世界を体験しました。また、12月には浮沈子や熱気球を作り、浮力について学びました。いずれの回も、最初に日川小学校校長でもある中村 雅彦先生によるマジックの披露から始まり、「なぜそうなるのだろうか？」と疑問と興味を抱かせることから「科学的な原理を知りたい！」という知的好奇心を誘い出していました。その後は簡易玩具を制作し、遊びを通じて体感しながら科学的な原理を理解していました。自然現象には全て原理があります。これから身近な様々な現象にも科学の視点から興味を深めてもらいたいと思います。



暖めた空気を入れ、熱気球を上げる体験



浮沈子を上下させて遊ぶ



液体窒素で花を瞬時に凍らせる体験に興奮する参加者

その後は簡易玩具を制作し、遊びを通じて体感しながら科学的な原理を理解していました。自然現象には全て原理があります。これから身近な様々な現象にも科学の視点から興味を深めてもらいたいと思います。

地域で子どもたちを育てる学習会

石和町地域福祉推進委員会

11月14日、笛吹市のスコレーセンターで「地域で子どもたちを育てる学習会」が開催されました。「集団になじめない子どもの理解を深めよう」の講演会で、山梨県総合教育センター相談支援部 石和こすもす教室の三枝ゆかり先生を講師に迎え、心の居場所づくり・居心地のよい場所づくりについて説明されました。

こ（んなことがしたい 学び・体験）

す（てきな出会いがある 交流・ふれあい）

も（う少しもうちょっと やる気・前進）

す（まいる 笑顔・明日）の願いが込められた、こすもす教室についても話され、子どもたちがどのような活動を行っているのかも紹介されました。講演会の後には、グループや全体での意見交換が行われました。参加者か



講演会とグループ討議の様子

らは、「子どもたちが新たな一歩を踏み出すことができるようにあらゆる面から支援を行っている様子がよくわかりました。」という声が聞かれました。「安心・安全で気持ちよくいられる場所で人とつながることが大切です。」と話された言葉が印象に残りました。

上条集落見学会 & ダイコン収穫体験会

甲州市文化財課

11月3日、重要伝統的建造物群保存地区である甲州市上条集落の見学会が行われました。伝統的建造物群保存地区とは、歴史的建造物を単体ではなく空間として保存するための制度で、市町村が決定した保存地区の中から、国が特に価値の高い地区を選定したものが重要伝統的建造物群保存地区であり、県内では2カ所だけになります。参加者たちは金剛山福蔵院・金井加里神社・六地藏幢・観音堂・木食仏等についての説明を聞きながら、集落が形成された当時に思いをはせていました。当日は天候にも恵まれ、すばらしい景観に心豊かな時間を過ごすことができました。見学会と共に開催されたダイコン収穫体験会にもたくさんの方が参加し、袋いっぱいダイコンに満足の様子でした。



福蔵院の住職さんのお話



集落を見渡す参加者ら

問題解決にはプロセス(方法)が大切

笛吹市生涯学習課・青少年育成推進協議会

笛吹市の一宮地区青少年育成推進協議会では11月14日に「紙をたのしむキラキラスケッチ☆」の沖津 香奈子氏を講師に迎え、「親子で学ぶ小学生のプログラミング紙工作体験」を実施しました。2020年度からは小学校で、2021年度からは



目的に対してどんな手段が使えるか方法を考える

中学校でプログラミング教育が開始されました。沖津氏の教室では初めに生活で使われているプログラミングについて知り、実際にセンサーを使いプログラミングを学びます。その上で参加者に日ごろ困っていることを挙げさせ、テクノロジーを使った問題解決方法を模索し形にします。そのため各自それぞれのオリジナル紙工作が完成します。最後には自ら開発した製品を皆の前でアピールし合う場面も用意され、プログラミング的思考はもちろん、主体的に考え、判断し、表現するといった新時代に必要な資質・能力への育成の工夫も見られ、大変有意義な時間となっていました。



各自が希望する紙工作をつくるための多彩な部品

DVD動画による中学生と保育園児の交流

甲州市立勝沼中学校

認定こども園 岩崎保育園・甲州市立東雲保育所

新型コロナウイルスは次々と変異株が現れ、収束の兆しが見えません。地域や他校との交流は未だコロナ前には戻りませんが、様々な工夫の中で試されている新たな取組を紹介してきました。勝沼中では、家庭科の授業で制作したおもちゃを地元の保育園に持参し、一緒に遊ぶ交流を続けてきましたが、今年は生徒たちがそれぞれ遊び方を説明した動画を撮影し、園に届けて観てもらいました。12月17日に、岩崎保育園と東雲保育所で動画を視聴した園児たちが楽しく遊ぶ様子を撮影してもらい、23日に勝沼中で視聴しました。生徒たちは園児の表情や遊び方を観察し、実際にその場ではどんな声かけが必要かなどを考えました。また、両園ともに先生方から「卒園生が立派に成長して中学生になった姿に感動しました。」という声が聞かれ、園児からは「お兄さんやお姉さんが教えてくれた通りにやったら上手にできました。」と喜びの声が聞かれました。中学生からは「園児の気持ちになって、興味を持ちやすいような色や形に変えたり、遊び方をわかりやすく説明したりしました。」といった工夫の声が聞かれました。それぞれにとってとても楽しく、学びの時間となる素晴らしい交流企画でした。



自分たちで作ったおもちゃで遊ぶ園児の様子から、特徴や気持ちを想像する生徒



中学生が遊び方を説明する動画を視聴した後、協力しておもちゃで遊ぶ、岩崎保育園の園児



贈られたおもちゃで遊ぶ未満児(0~3才児)と、お祭り屋台のようにして上級生が下級生を招いて遊び方を教える、東雲保育所の園児

それぞれにとってとても楽しく、学びの時間となる素晴らしい交流企画でした。

中学生による一日警察署長・一日税務署長

山梨市立山梨南中学校
日下部警察署・山梨税務署



委嘱を受ける田中さん

日下部警察署では「交通安全弁論大会」、山梨税務署では「税の作文コンクール」で最優秀賞に輝いた管内の中学生を一日署長として迎えるイベントを行っています。今年は共に山梨南中の生徒が受賞し、それぞれ署長を委嘱されました。警察署では12月1日に田中沙季さんが山梨市のベイシア駐車場において、署員や交通安全協会、安全運転管理者協議会などの関係者と共に買い物客らに交通安全を呼びかけました。税務署では12月1日に山梨税務署長賞・山梨市長賞・山梨地区納税貯蓄組合連合会長賞の受賞式を行い、20日には三澤慶さんが署員を前に「訓示」として自身の体験から税の大切さを伝えた受賞作文を読み上げました。また、署長に代わって納税貯蓄組合連合会長から「キャッシュレス納付共同推進宣言」を受けたり、模擬決裁をしたりして署長業務を務めました。いずれも地域社会において必要不可欠な公的機関であり、貴重な経験となりました。



各賞の受賞生徒と関係者



決裁の印を押す三澤さん

長年にわたる地域の指導者に感謝状贈呈

山梨市立山梨北中学校

今年で創立50周年を迎えた山梨北中では、11月26日に来賓を迎えて盛大に記念式典が挙行されました。式典の冒頭、有志の女子生徒たちによるアトラクションの箏の演奏



箏曲のオリジナルメドレー演奏

に続き、山梨北中のラグビー部を32年間指導されている外部指導者の雨宮大作氏と、学園祭などで披露される、「山北ソーラン」を9年間指導されている楠あけみ氏の2人に感謝状が贈呈されました。また、式典の最後には、50年間の歩みをまとめた思い出のスライドが上映され、来賓の方々や教職員にとって大変懐かしい数々の思い出が紹介されました。山梨北中に限らず、地域の学校は地域に根ざし、地域の方々の多大なご理解とご協力の上に成り立っています。この先も地域に愛される学校として活躍し続けることを期待しています。



感謝状を贈られた両名

変化する社会の中で新たな価値の創造を

山梨県立日川高等学校

日川高校は峡東地区の「知」の拠点となるべく「スーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）」の指定を受けてから今年度で2期10年目を迎えました。日川高校のSSHの特徴は、指定クラスだけでなく全校を対象に課題研究を挙げた点にあり、自然科学系の分野だけでなく、社会科学やスポーツ・健康科学など様々な分野の研究が行われています。SSHの活動は年間通してたくさんありますが、多様な講師による講演会が実施されています。日本学術振興会のフェローである東京農工大学のIsiam HAMIM氏（ハングラディッシュ）による植物ウイルスを題材にした講演会では、講演も生徒からの質問も全て英語で行われ、休み時間にも講師の前に質問の列ができていました。また同校OBの赤池尚也氏が、青年海外協力隊として東ティモールバレーボールの指導に派遣された経験をもとに、肌で感じたSDGsと題して講演を行いました。さらに東京大学先端科学技術センター所長の神崎亮平氏とリモートで繋ぎ、最先端の生命工学研究だけでなく、芸術や宗教などとの異分野融合により、多彩な学際性を維持し、新たな創造がなされることなどが講演されました。いずれの内容も新時代を担う生徒たちにとって大きな刺激になっていました。この講演会以外のSSH活動実践例は日川高校のホームページをご覧ください。



HAMIM氏(10/14) 休み時間も質問の生徒で溢れる



赤池 尚也 氏 (10/19)



神崎 亮平 氏 (10/28)

かどまつ 家族で門松をつくろう！

山梨市子どもクラブ指導者連絡協議会

12月11日、山梨市子どもクラブ指導者連絡協議会は街の駅やまなしで小学生とその家族を対象とした門松づくり教室を開催しました。コロナウイルス感染症の影響で2年ぶりの開催となりましたが、毎年この時期に市内の造園家を講師として招き、昔ながらの伝統的な風習を伝えるとともに、新年を手作りの門松で迎えてもらおうと実施されてきました。参加者らは、講師の説明を聞きながら、松、竹、梅の枝を組み合わせ、縄を巻いて本格的な門松一對を作りました。門松は「福」や「徳」をもたらす「年神様」が各家庭に尋ね入る際の目印とされています。家族と地域の方が協力して作った門松で、地域や家庭に「福」や「徳」を迎えて欲しいと思います。



作り方を教わる親子

ことぶき勸学院・活動報告

山梨ことぶき勸学院 甲府教室



自動ブレーキサポカー体験 (協力: 山梨トヨタ)



自転車シミュレーター体験 (協力: 県交通政策課)



ドライブシミュレーターによる運転適性診断 (協力: 三井住友海上)



3D映像「わたりジョーズ君」で危険横断体験 (協力: 山梨県警)

康維持に努めていました。令和4年度は峡東地区からさらに多くの入学希望者をお待ちしております。

今年度から峡東地区にお住まいの勸学院生は、甲府教室にて合同で活動しています。毎月様々な分野の講座が開かれていますが、10月には多くの企業や関係機関の協力を得て「交通安全教室」が行われました。学院生たちは日本自動車連盟(JAF)の講師による高齢者の交通事故の特徴や危険予測の方法などの講義を受けた後、山梨県交通政策課や山梨県警察交通企画課が準備した様々なシミュレーターなどの機器を操作して事故を防ぐ運転や歩行の方法を疑似体験し、貴重な経験となりました。また、11月には県立美術館を見学し、12月には小瀬武道館においてロコモ(ロコモティブシンドローム=運動器障害の

ために移動機能の低下をきたした状態)の防止教室を行い、参加者全員で楽しく運動しながら心や身体の健康維持に努めていました。令和4年度は峡東地区からさらに多くの入学希望者をお待ちしております。



息を合わせて立ち上がる運動

峡東教育事務所からのお知らせ

- ※ 令和4年度の山梨ことぶき勸学院 甲府教室(定員90名)の入学生募集は、2月1日(火)より甲府教室(甲府市東光寺2-25-1)にて受付開始です。募集要項は峡東教育事務所にもあります。
- ※ 異校種間授業交流の実施状況中間調査へご協力をいただき、誠にありがとうございました。3月末に最終調査を行いますので、引き続きご協力をお願いいたします。

PDF版をご覧ください

『エリアウェブ』はPDFのカラー版を峡東教育事務所のホームページで掲載中です。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開けます。是非ご覧ください。



エリアウェブ
ホームページ

ホームページアドレス

<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/backnumber.html>

ご意見をお寄せください

『エリアウェブ』のご意見・ご感想・取材情報スタッフ一同お待ちしております。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙上部の連絡先にご連絡ください。



E-mail アドレス

kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp

お問い合わせ